

ターザンの影

密林の王者「ターザン」は、昭和のヒーローだった。「ア

ーアアア」。木のツルにぶら下がり雄たけびをあげる。幼かったころ、誰もが一度はターザンごっこをしたものだ。ターザン役のジョニー・ワイズミュラー(1904〜84)

は、水泳の元オリンピックチャンピオン。彼が選手として全盛のころ、日本の水泳界を席巻したのは、大阪の旧制茨木中(現・府立茨木高校)だった。茨木中水泳団には、ワイズミュラーの写真が残り、来校したと伝えられている。意外なつながりと友情をたどる物語を、ここから始めよう。

◇ 時代は大正に変わり、「デモクラシー」や「モダン」という言葉が社会の空気を表していた。水泳も日本泳法から欧米式に変わり、タイムは著しく向上。けん引したのは、日本初の学校プールを作り、クロールを導入した茨木中だ

謎に残るプールサイドに茨木中

五輪王者が来た



茨木高校創立90周年記念誌に掲載されたジョニー・ワイズミュラー(左)の写真

った。1916(大正5)年に生徒たちの手作業でプールが完成し、19年には「競泳研究特別班」を編成した。クロールの成果により、昭和初期までの十数年間で五輪メダリスト2人を生んだ。当時の強さを示すエピソードがある。静岡県(浜名湾(浜名湖)で、21(大正10)年に水泳の全国大会が始まった。主催の浜名湾泳協会は「日本における知名の水泳団体を招くこと。なかでも茨木中学を招くこと。茨木中学を假想

敵国と考える」と決めたといい。その2年後の日本記録をみると、競泳1種目のうち茨木出身の選手たちが計五つの記録を持っていた。

古い資料を読むうち、一枚の写真が目にとまった。プールサイドに立つ水着姿の長身の外国人と小柄な日本人。後ろには多くの学生が見える。茨木高校創立90周年記念誌に

ターザン

1918(大正7)年、サイレント第一作「ターザン」以降、40本以上の映画が公開され、アニメやテレビ映画も製作された。ジャングルで猛獣をひきいて密猟者などをこらしめる野人で、妻や子ども、チンパンジーなどが登場する。これまで20人が演じ、6代目のワイズミュラーは最多の12本に出演。最高のはまり役といわれる。



ワイズミュラーがDVD発売提供したターザン・ジョニー・ワイズミュラーのアーカイブ

掲載されたワイズミュラーの写真だ。彼は、24(大正13)年のパリ五輪、28年のアムステルダム五輪の自由形で計5個の金メダルを獲得した。記念誌には、水泳団OBのこんな証言がある。

△昭和15年でしたか、ワイズミュラーも来ているんです。彼の写真は部屋に飾ってあったんです。茨木中が世界レベルにあつたあかしと言えよう。だが、その年は太平洋戦争開戦前年にあたり、予定されていた東京五輪は幻となった。調べてみると、外国との対抗戦は一つもなく、米国選手のみはありえない話だった。そしてもう一つ、ワイズミュラーはその時すでに引退し、ハリウッドのスターになっていた。私は写真の謎を解くため、ターザンの残影を追うことにした。

【砂間裕之】
敬称略、つづく

ゆう

びん

ターザンの影

②

大阪の旧制茨木中（現・府立茨木高校）に伝わるジョニー・ワイズミュラーの写真は、外国選手が一人も来日しなかった1940（昭和15）年の撮影ではないことが明らかになった。おそらく証言者の記憶違いだったのだろう。

日本水泳連盟の記録を調べると、ワイズミュラーは、28（昭和3）年のアムステルダム五輪後、初来日した。水泳選手としての来日はこの1回だけだ。朝日新聞の田畑政治（後の日水連会長）の発案で五輪金メダリスト6人を招待した国際水上大会に出場するためだった。東京は10月13、14日に玉川プールで、大阪は同21日に築港プールで開催された。アムステルダムで日本水泳陣は、200メートル平泳ぎの鶴田義行が史上初の金メダルに輝くなど、計3個のメダルを獲得。1万人収容の玉川プールの仮設スタンドは人であふれたという。坂口安吾は、50（昭和25）年10月の文芸春秋「安吾巷談」で回想している。

△ワイズミュラーはプー

無邪気なヒーローに沸いた

ルのまん中までもぐっていい、顔をだしさま、水をふきあげて、ガガア！という河馬のマネ（ではないかと思うが）を再三やって見物衆をよろこばせた。天性無邪気で、当時からターザンに誰よりも適任の素質を示していた▽

まさか後に、ターザンになるとは思いもしなかっただろう。

ターザンに詳しい映画評論家の児玉数夫（93）は「日本で泳いだことは新聞で読んだ記憶がある。顔のつくりが大きく、ターザンに一番ふさわしい役者だった。それまでのターザンは野人的だが彼がイメージを変えた」と話す。

ワイズミュラーは、国際水上で、出場した個人種目すべてで優勝。観客は、ワイズミュラーに挑む、ある日本人スイマーにひととき大きな声援を送った。

【砂間裕之】
敬称略、つづく

玉川プールと築港プール
玉川プールは25（大正14）年に、現在の世田谷区上野毛にオープンした唯一の国際公認プール。子ども用プールもあった。築港プールは、23年の極東大会のため陸上競技場と併設する形で建設。現在の港区・八幡屋公園付近にあった。



映画「ターザン」シリーズの1シーン＝DVD発売元のアイ・ヴィー・シー提供

便

ゆう びん

ターザンの影

③

米国のジョニー・ワイズミュラーらを招いた国際水上大会（1928年）の100メートル自由形でワイズミュラーに果敢に挑んだのは、大阪の旧制茨木中（現・府立茨木高校）でクロールを完成させた高石勝男（1906〜66）だった。新聞は「高石は50メートル直後に、やや前に出たが、ワイズミュラーは85メートルでスパートした」と分析。高石は3位に終わる。

実は、茨木中に伝わるあの写真で、ワイズミュラーと一緒に写る日本人こそ、高石なのである。世界のトップに上り詰めた原点は茨木中にあり、それは近代水泳の黎明でもあった。

茨木中はプール建設後、19（大正8）年に1万メートルに強い1年生らを選抜して「競泳研究特別班」を組織。伝わったばかりのクロールは、50メートルに使う息継ぎなしの泳法で、主流は日本



華麗なクロールで泳ぐ高石勝男
—早稲田大学水泳部80年史から

クロール完成 好敵手現る

泳法だった。茨木中はクロールに息継ぎを初めて採り入れる。高石と同級で、地元の芥川（大阪府高槻市）で小さいころから泳いでいた入谷唯一郎が、まず習得し、高石が続いた。

翌20年に伊豆の戸田（静岡県）であった東京帝大の水泳大会。茨木中は初出場で優勝する。国民新聞はこんなふう伝えた。

△一高、帝大等の猛者連を一蹴して茨木中が優勝したのは飛んだ番狂わせであった▽
高石は、アムステルダム五輪（28年）の100メートル自由形で銅メダルを獲得し、ワイズミュラーの好敵手になった。だが、大阪での国際水上の直前、ワイズミュラーは「100メートルを泳がない」と言い出したという。

「出たら俺が勝つ。高石の郷里なので悪い」。結局、高石がレースを回避し、ワイズミュラーは優勝する。

日米の盟友は、勝負を通じて固い絆で結ばれていた。私は、茨木中に伝わる写真が、大会の間を縫って高石の母校を訪れ、撮影されたものと、その時、確信した。

【砂間裕之】
敬称略、次回は24日
日本泳法

古式泳法とも呼ばれる。武芸の一つとして江戸時代に発展。現在、12流派が公認されている。片拔手、立泳などがある。

ゆう
便
びん

ジョニー・ワイズミュラー

ーと高石勝男の友情を考えると、国際水上大阪大会の際、2人は旧制茨木中（現・府立茨木高校）を訪れた可能性が高い。だが写真の風景は何か違う。後ろに写る学生の角帽もおかしい。「茨木中は角帽ではない」という証言を得たからだ。撮影場所に疑問を持ち始めた時、私は2人が写る別の一枚にたどり着いた。

写真には、スウェーデンのアルネ・ボルグと男の子も一緒に納まっている。1928（昭和3）年の国際水上東京大会の際、玉川プールで撮影されたらしい。男の子は、当時7歳だった森光世（故人）。森と親交のあった岩田忠利（元）によると、玉川プールには日本の合宿所があり、食事は「玉川喫茶店」が世話した。森はその店の子どもで、高石にかわいがられていた。早稲田大に進んだ高石はこの店のカツ丼を特に気に入っていたという。森の弟倫平（84）は「卵でとじないでタレ

身長差20センチ カツ丼の執念

をかけるカツ丼だった。戦後評判になった」と懐かしそうに語る。

高石の肉にまつわる話は早稲田大水泳部OBの村山修一（90）は川崎市多摩区からも聞いた。「関西学院との定期戦後、20人ほどの部員を兵庫県の自宅に招き、すき焼きを満腹になるまでふるまってくれた」。戦後間もないころだ。

高石は、ワイズミュラーとの勝負に執念を燃やした。だが170センチと190センチの差は埋めがたい。だから肉を食べて力をつけることにこだわったのではない。か。アムステルダム五輪（28年）の報告で高石は外国選手について「まずい泳ぎだが、日本人の体格である泳ぎはできない」と記した。

写真の謎解きは、振り出しに戻った感がある。だが、新たな写真の出現で高石の心の内面に少し近づいた気がした。

【砂間裕之】
敬称略、つづく

アルネ・ボルグ
当時、1500cc自由形の世界記録保持者。国際水上にフィアンセを伴い来日し、東京で結婚式を挙げた。相手は大西洋単独無着陸飛行のリンダバーグのめい。式で高石が花嫁にキスをされ、閉口したとの逸話が残る。



イズミュラーと高石が写る一枚。左はアルネ・ボルグ。タウン誌「とうよこ沿線」1号から

「こりゃ、茨木と違いますわ」。旧制茨木中（現・大阪府立茨木高校）で水球選手として活躍した奥田精一郎(93)は、写真を見て、そう証言した。奥田が入学したのは、ジョニー・ワイズミューラーが来たときとされる1928（昭和3）年の5年後。プールは、その間、さほど変わっていない。謎解きは迷路に入り込んだ。

そのプールは、15（大正4）年9月6日に起工し、生徒たちの手作業で半年後の16年3月15日に完成。作業には、後に評論家として活躍する大宅壮一（1900〜70）と、ノーベル賞作家の川端康成（1899〜1972）もいた。大宅1年、川端は4年生である。生徒たちは「スコップ組」「籠組」「車組」「水車組」の4組に分かれて作業。積極的だったのは大宅だ。10月19日の生徒日誌に、こうつづける。

△体操の時間「水車を踏

川端が大宅が土にまみれた

まんと思うもの？」といわれしかば、僕は直に手を挙げて之に応ぜし。何となく恐ろしく微震を覚えたりしが、次第に大胆になり、終には反って面白くなれり▽大宅の三女で評論家の映子(72)は、父から、戦時中にインドネシアで輸送船が撃沈され海に投げ出された話を聞いた。大宅は「真っ暗だったが、茨木中で水泳をやったから助かった」と話していたという。映子は「父は運動音痴だったが、唯一誇れるのが水泳だったのでは」と推測する。

川端の関心は、そのころ文学に大きく傾く。16年1月19日には校長室に呼ばれ、文学にふける姿勢を注意される。だが翌20日の日記には「おれは今でもノーベル賞を思わぬでもない▽と書く。プールづくりの「体操」は欠席が多いようだ。

川端のノーベル賞決定を伝える68（昭和43）年10月18日の毎日新聞には、茨木中の恩師がお祝いの言葉を寄せ、川端の作業の様子に言及した。△きゃしゃな体にモッコをかつき、裸足で懸命に土を運んでいた▽

この恩師こそ、茨木水泳団の輝かしい歴史を築いた体操教師だった。ワイズミューラーが茨木中を訪れたなら、その伝説の人物と水泳論を語り合ったに違いはない。

【砂間裕之】
敬称略、つづく



水車を踏む大宅壮一（右）



旧制茨木中(現 大阪府立茨木高)を語るうえで、近代水泳の立役者、杉本伝(1889~1979)に触れぬわけにはいくまい。体操教師で、日本初の学校プールを建設、クロールで世界への道を開いた人物だ。ジョン・ワイズミュラーが国際舞台で鮮烈なデビューを果たしたパリ五輪(24年)に、杉本の姿もあった。

△ピッチはわりに遅いが、彼の泳いだあとにはモーターボートの通ったあとのように白いすじが残る。彼の泳ぎをそう分析した。杉本は水泳コーチとして派遣され、五輪後、欧州と米国で最新事情を視察、貪欲に知識を吸収した。

杉本がすごいのは、卓越した発想と実行力である。「競泳研究特別班」を編成した19(大正8)年に、約42坪のプールを50坪に拡張。ターン用の板とスタートル台も設置した。23年5月の極東大会前には、3月から練習できるようプールの一部を区切り、臨時の室内温水プールを造った。

先見の師 世界へ道開く

だが杉本に水泳選手として活躍した経験はない。洋書でクロールを学び、生徒とともに工夫を重ねた。発想の源泉は、世界を見ずえた柔軟な思考力だろう。私はその素顔に触れたいと思いい、著名な原子核物理学者だった息子健三(故人)の妻清子(82)を訪ねた。

ある時、胸像設置の話が持ち上がった。だがプール建設やクロールは自分だけの功績ではないと断り、完成した胸像は今も自宅応接間に置いたままだという。驚いたのは庭にプールがあることだ。「日本庭園の池はプールなの。長さ10メートルで底はコンクリート。夏には家族で泳いだの。とにかく水が好きだった」

晩年、病気の後遺症で体が不自由になり、毎日静かに水面を見つめていた。きっと教え子たちと過ごした、激動の時代を思い返していたに違いない。

パリ五輪後の視察から帰国すると、杉本は新たに飛び込みと水球に力を入れる。26年以降、海外から何人も飛び込み選手を招へいたが、杉本の著作にワイズミュラー来校の記述と写真は無い。【砂間裕之】

敬称略、つづく



全国大会で優勝し、プールの前で選手たちと記念撮影した杉本伝(前列左から2人目)
—大阪府立茨木高校提供

便
ゆうびん

入江稔夫(1911~74)の自宅を訪ねたのは、昨年10月だった。旧制茨木中(現・大阪府立茨木高)出身でただ一人、世界記録を樹立し、ロサンゼルス五輪(32年)では銀メダルを獲得。大阪府高槻市の自宅には、メダルや世界記録章と多くの写真が残る。その中にジョニー・ワイズミュラー伝説の謎を解く写真があることに、私は後で気づくことになる。

茨木中の写真は、28(昭和3)年に撮影された。だが撮影場所は茨木ではない可能性が高くなった。私は当時の新聞を繰り、古い資料を読みあさった。

ワイズミュラーは、国際水上大会に先立ち、同年9月29日に東京・玉川プールで初練習。10月13、14日の本番に向けて調整し、講演会もこなした。大会終了後の17日には「世界記録を作る会」に参加し、大阪には19日朝に着く。大阪朝日新聞を表敬し、府庁や大阪市役所、大阪毎日新聞も訪れた。午後には築港プールで

初の世界記録ともう1枚の写真

練習。翌日は宝塚でゴルフをした後、最終調整し、21日の大会に臨んだ。この間、茨木中訪問の記事はない。東京、大阪両大会中、日本選手で最も奮闘したのが、茨木中5年の入江だった。東京での200メートル背泳ぎで世界記録を出し、アムステルダム五輪メダリスト2人に雪辱。記録は日本初の公認世界記録となる。

入江の次男汪行(69)と恭子(65)夫妻が、当時の練習ぶりを教えてくれた。「部屋の中に丸太を渡して、さらしをつり下げ、あおむけで宙づりになる。その状態で背泳ぎの練習をする。手を回した下の畳はポロポロ。冬場は近くのため池で氷を割りながら泳いでいた、と父に聞いた」。ひたむきな努力で、16歳ながらアムステルダム五輪で4位に入り、世界記録につながった。取材を始めてしばらくして、私は入江宅で何気なく接写した1枚を改めて見直し、がくぜんとした。茨木中の写真をややズームアップした凶柄だったからだ。だが、写っているのはなぜかワイズミュラーと先輩の高石勝男だけだ。入江は見当たらない。【砂間裕之】

|| 敬称略、つづく



ターザンの影

⑧

取材は大詰めを迎え、私はクリスマスの東京に向かった。85年前の大会を知る人は見つからず、なかなか事実に近づけない。だが旧制茨木中（現・大阪府立茨木高）出身の高石勝男の追悼集（1967年発行）を讀むうち、「もしや」と思う1枚に出合った。

早稲田大水泳部のOB会副会長、地平達郎(65)が保存する、その集合写真には、プールサイドに25人の選手が写っている。「ジョニー・ワイズミュラーはここ、この人が高石さん」。後方の白っぽい木やプールの細部、角帽の学生など、茨木中の写真に酷似している。ワイズミュラーのしま模様の水着も同じだ。

△東京大会と大阪大会の間に、午後の一刻、一行が高石記念プールを訪れた。リレーのほか、混合チームで水球を行い、ゲーム中曲技を披露するなど、誠に榮

謎は解け 伝説が残った

しい一刻であった▽
早稲田大水泳部80年史の一節である。地平は茨木中の写真について「これは間違いなく早稲田の高石記念プールだ」と断言する。

私は再び、国際水上で活躍した入江稔夫宅でアルバムを見せてもらった。茨木中の写真と比べると、サインの位置が違う。以前の取材で気にとめなかった1枚が、早稲田の写真とほぼ同じであることも分かった。

ワイズミュラーと入江、茨木中と早稲田。4者を結ぶ人物は1人しかいない。入江の早稲田入りを後押しした先輩の高石だ。高石は大会翌日、茨木中に凱旋する。おそらくその時、ライバルと写したサイン入りの写真を母校に、もう1枚を入江に贈ったのだろう。

このあたりで物語を終えよう。私はワイズミュラーが茨木中に行かなかったとは思わない。1日だけ可能な日があるからだ。28（昭和3）年10月23日、高石が凱旋した翌日である。実はその日の午後、彼は茨木でゴルフを楽しんでいた。

ターザンになった後も、茨木水泳団で伝説が語り継がれたワイズミュラー。水泳ニッポンの原点で、ライバル高石を育てたプールのすぐ近くまで行き、立ち寄りなかつたとは、私には思えない。

【砂間裕之】
敬称略、おわり

早稲田大水泳部に残る集合写真（中列右から3番目がワイズミュラー）
＝早稲田大水泳部80年記念誌から

